

令和7年度 北海道小学校長会地区活性化支援事業【実践事例レポート】

- 1 報告地区：十勝地区
- 2 事例報告学校名：新得町立富村牛小中学校
- 3 報告者職・氏名：校長 平川 正規
- 4 キーワード：地域・家庭・学校が一体となった教育活動の推進

1 はじめに

新得町は北海道のほぼ中央に位置し、東は鹿追町・上士幌町、南は清水町、西は南富良野町、北は美瑛町・上川町に接している。町域の大半は森林と山岳地帯が占め、北部には国内有数の2,000m級の山々が連なる。一方、中央部から南部にかけては穏やかな高原や丘陵が広がり、特にそば畑を中心とした畑作や酪農が盛んである。このように、新得町は山岳・森林・農地・高原が調和した多様な地形を特徴とする町である。



富村牛小中学校は、トムラウシ山を望む自然豊かな山あい位置し、広大な森林と清流に囲まれた静かな山村地域にある。夏には深い緑が、冬には一面の雪景色が広がり、四季折々の自然が子どもたちの学びを優しく包み込んでいる。地域には肉牛牧場が多く、自然とともに生きる生活文化が息づいている。本校では、この豊かな地域の特性を教育に生かし、自然体験や森・川を活用した学習など、山村ならではの特色ある教育活動を推進している。本校の歴史は古く、開拓の歩みとともに設けられた分校を原点として発展し、地域の皆様とともに現在の義務教育学校の形へと歩んできた。令和4年度からは新たな体制で教育を進め、「地域とともに育ち合う学校」としての役割を一層大切にしている。現在、在籍児童生徒は小学生3人、中学生8人、計11人と小規模ではあるが、その分、一人一人のつまずきや成長に丁寧に寄り添い、きめ細やかな教育を行っている。また、親子で地域へ移り住んで学ぶ「親子山村留学」も受け入れ、自然豊かな環境で学びたい子どもとご家庭を温かくお迎えしている。

2 学校経営

令和7年度の学校経営にあたり、教育経営における説明責任を誠実に果たすとともに、児童生徒の率直な声に耳を傾け、その可能性を最大限に引き出す教師像の確立を目指している。子どもたちには、「頭が元気（考える力）」「心が元気（豊かな人間性）」「体が元気（健康・安全）」という、本校が大切にしてきた三つの柱を引き続き求めている。中期的な目標としては、新しい時代を生き抜くための資質・能力の育成（頭）と、健康で豊かな人間性の育成（心・体）を掲げ、その実現に向けた教育活動を展開している。

これらの目標を踏まえ、本校では次の四点を重点として取組を進めている。

- ①地域資源を最大限に生かした、特色ある9年間の教育課程の編成
- ②個別最適な学びと協働的な学びを充実させ、学力の一層の向上を図ること
- ③道徳教育の推進や多様な体験活動を通じた、豊かな人間性の育成
- ④地域と連携した健康・安全教育の充実と、体力向上の推進

本校の教育は、地域の支えとともに成り立っている。令和7年度も、子どもたち一人一人が「自信をもち、未来へ力強く歩む」ための学校づくりに、教職員一同、全力で取り組んでいる。

また、教育目標を具現化するために、これまでの仮設実証型の校内研究から大きく舵を切り、学校経営ビジョンを基に教職員がグループに分かれて具現化していく“自走型の研究”を進めている。子どもたちの成長の姿を思い描きながら、教師一人一人が「自分のやりたい教育」ととことん追求する“大人の総合的な学習の時間”に挑戦している。

さらに、本校では「伸びる指導」の実現をめざし、次の三点を中心に授業改善を図っている。

- ①「子どもを信じ、教えすぎない」ことを大切にし、自ら学ぶ姿を引き出す授業を目指す。
 - ②書く・話す・話し合う場面を意図的に作り、アウトプットの量を確保することで、思考の深まりと確かな学力を育む。
 - ③子どもたちが自らの発想で主体的に活動できる学習環境を整え、ICTを適切かつ効果的に位置付ける。
- これらの実践を通して、教職員一人一人が学び続け、その学びを子どもたちへ確かな成長として還元できる学校づくりを引き続き進めていく所存である。

3 地域との連携

(1) 地域合同運動会や学芸会

本校では、地域・家庭・学校が一体となって行事を創り上げる伝統が脈々と受け継がれている。地域合同運動会では、子どもも大人も同じフィールドで競技に挑戦し、互いを全力で応援し合う姿が見られる。競技に臨む真剣な表情や、結果をたたえ合う温かな雰囲気は、富村牛地区ならではの地域力の表れである。

学芸会では、児童生徒の発表に加え、母の部、PTA、青年部など地域組織も出演し、教職員もその一員として舞台づくりに参加している。地域の大人たちが主体的に舞台に立ち、文化を受け継ぎながら子どもたちと関わる姿は、この地区の大きな特色である。これらの行事は、単なる学校行事ではなく、富村牛地区に長年受け継がれてきた共同文化としての価値を有している。行事を通して培われる「つながり」「支え合い」「地域への誇り」は、子どもたちの豊かな成長を支える重要な基盤となっている。



(2) グリーンクラブの活動

クラブの活動は、啓発活動や自然体験活動を通して、子どもたちが自然への興味関心を高めるとともに、ボランティア精神や仲間と協力する姿勢を育むことを目的としている。これらの取組は、地域の自然環境や文化を理解し、富村牛のよさを主体的に感じ取る貴重な機会となっている。

特に、8月に実施されるトムラウシ山（標高2,141m）の登山は、1泊2日の日程で地域の指導者を中心に行われる、活動の中でも象徴的な行事である。児童生徒のみならず、保護者や教職員も参加し、地域ぐるみで取り組む点に特色がある。登頂時、そして下山後に味わう達成感は格別であり、参加者一人一人にとって大きな成長の契機となっている。



(3) 地域行事

富村牛地区には多様な地域行事が存在している。運動会や学芸会をはじめ、多くの地域住民が参加し、準備段階から一体となって行事をつくり上げている点が大きな特色である。また、祭り、クリスマス会、卒業を祝う会など、年間を通して地域の方々や学校が協力して活動を行っており、こうした取組が地域の結束と子どもたちの成長を支える基盤となっている。



4 おわりに

本校では、「子どもまんなか」に心理的安全性の高い教育環境を目標に掲げている。子どもたち一人一人の幸せを実現させ、人格の完成を目指し、保護者、地域の期待を担っていかねばならない。そのためにも、この富村牛文化を大切にし、子ども・地域・家庭・学校が一体となった教育活動を今後も推進していきたい。